

県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

みやぎの

9月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.223 2025.9

紹介内容（8/1～8/31）

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 仙台農改：家族経営協定が締結されました
 - 亘理農改：下余田Ⅱ期地区担い手組織の法人化支援を実施しました
 - 石巻農改：令和7年度石巻地方農作物異常気象対策会議が開催されました
 - 亘理農改：「ハイドリウム・ロードリウム」で目標と課題を明らかに
 - 大河原農改：農業法人でスマート農業研修会を行いました
 - 大崎農改：令和7年度加美郡りんご協議会先進地視察研修会

- ② 新たな担い手の確保・育成・・ 3
 - 石巻農改：農業大学校生の普及センター訪問（先進農業体験学習）を開催しました
 - 亘理農改：みやぎ農業未来塾「第2回地域農業紹介講座」を開催しました
 - 大崎農改：若手女性農業者向けワークショップ「みんなでマルシェ参加講座Ⅰ」を開催しました！
 - 大河原農改：角田市の新規就農者へのサポートチームによる訪問を行いました
 - 気仙沼農改：本吉響高校が気仙沼合庁地場産品直売会に参加しました
 - 登米農改：登米市4Hクラブが登米おいしいもの市に参加しました
 - 登米農改：内ノ目地区で加工用トマトの収穫が行われました

- ③ 園芸産地の育成・強化支援・・ 5
 - 仙台農改：JA仙台トルコギキョウ生産組合現地検討会が開催されました
 - 気仙沼農改：南三陸地域花卉出荷目揃え会・圃場現地調査が開催されました
 - 仙台農改：今年初めて天敵ダニ製剤を導入した梨ほ場で現地検討会を行いました
 - 仙台農改：JA新みやぎあさひななぎ部会で視察研修会が開催されました
 - 大河原農改：さつまいもと加工用トマトの現地検討会を開催しました
 - 登米農改：加工用ばれいしょの収穫が行われました
 - 栗原農改：金成津久毛地区にて加工用トマトの収穫が行われました！
 - 亘理農改：亘理名取りりんご栽培研修会を開催しました
 - 大河原農改：柴田町の農業法人が加工用トマトの収穫を行いました

- ④ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - 亘理農改：大豆難防除雑草対策実証見学会が開催されました
 - 大河原農改：宮城県畜産総合共進会に向けた代表牛の集合指導会が開催されました
 - 気仙沼農改：金のいぶきの現地検討会が開催されました
 - 登米農改：米山地区で大豆現地検討会が開催されました

このニュースレターは、ホームページ(カラー版)でご覧になれます。<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html>
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。<https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu>

- 気仙沼農改：酒米「葦の華」の稲作指導巡回を行いました
- 石巻農改：矢本・鳴瀬地区合同大豆現地検討会が開催されました

⑤ 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

- 登米農改：登米地区生活研究グループ研修会で洋風はつとを体験！
- 仙台農改：大和町及び仙台市中山間部の農業者間で農地整備に関する交流を行いました
- 仙台農改：アレッタ栽培講習会が富谷市で開催されました

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

① 環境に配慮した持続可能な農業生産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

- 気仙沼農改：金のいぶきの現地検討会が開催されました
- 石巻農改：令和7年度みどり認定・まるわかり相談会が開催されました
- 登米農改：米づくり推進登米地方本部生産振興部会を開催しました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

- 家族経営協定が締結されました
令和7年8月8日
仙台農業改良普及センター



令和7年7月24日、富谷市役所にて家族経営協定の調印式が開催されました。

家族経営協定とは、家族で取り組む農業経営の役割・方針を家族全員で話し合い、決定する取り決めです。

今回締結された御家族は水稻・果樹・野菜と幅広い分野で営農していますが、今後の営農体制や後継者への移譲を考慮し、家族経営協定を締結しようと思立ったとのことでした。

締結した家族経営協定では、経営の方針や就労に関する事項から、健康管理にいたるまで、幅広い事柄が明文化されています。

調印式には立会人として富谷市農業委員会会長と当普及センター所長が出席しました。

締結後、御家族を代表し長男の方から「協定締結を機に、これからはさらに農業に取り組んでいきたい」と決意表明がありました。

普及センターでは、家族経営協定を含め経営の効率化・高度化について支援を行ってまいります。

- 下余田Ⅱ期地区担い手組織の法人化支援を実施しました
令和7年8月12日
亘理農業改良普及センター



令和7年7月24日、名取市の下余田Ⅱ期地区の担い手である高柳生産組合との打合せ会議が開催され、農業経営・就農支援センター（みやぎ農業振興公社）等に出席いただき、法人化支援等のアドバイスをいただきました。

アドバイスの内容は、従事分量配当について「作業日誌による従事時間制」を採用することや利用分量配当の扱い、先進地視察の実施等これからの組合運営の方向を示した貴重なもので、組合員からも積極的な意見が出されました。

また、JA仙台経営支援課長から、「JA仙台の契約専門家による相談対応」の提案をいただき、高柳生産組合で受けることになり、同課からも、継続した支援をいただけることになりました。

併せて、法人名が「農事組合法人高柳ファーム」に決まり、より支援の重要性が増してきました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、下余田Ⅱ期地区のほ場整備実施に向けて、担い手の体制構築を支援していきます。

- 令和7年度石巻地方農作物異常気象対策会議が開催されました
令和7年8月15日
石巻農業改良普及センター



令和7年7月31日（木）に令和7年度石巻地方農作物異常気象対策会議が開催されました。

本会議は、6月中旬からの記録的な高温と少雨による水不足が管内一部の農作物の生育に深刻な影響を及ぼしていることから、気象経過や現在までの農業用水、農作物の状況、今後の技術対策等を関係機関で共有するために開催されました。

県からの情報提供のほか、各土地改良区から農業用水の状況や講じている対策、各営農センターから農作物の状況などの説明もあり、今後の栽培管理に向けた情報の共有がなされました。

当普及センターでは、チラシや栽培情報などを活

用しながら、今後も効率的な用水の活用と技術対策に向けた支援を行っていきます。

○「ハイドリーム・ロードリーム」で目標と課題を明らかに

令和7年8月18日

巨理農業改良普及センター



令和7年7月23日、岩沼市の農事組合法人林ライスを対象に、社会保険労務士の松倉恵子氏を講師に迎え「組織運営強化及び人材育成研修会」を実施しました。研修会では、「ハイドリーム（1年後の最高の状況）・ロードリーム（1年後の最悪な状況）」の作成を通じて、組織や社員の目標や課題を明らかにしました。

研修は2部構成で実施し、第1部は4人の役員を対象に、役員全員でひとつのハイドリーム・ロードリームを作成し、組織が目指す組織の姿とその夢の実現に向けた課題を明確にしました。第2部は4人の社員を対象に、2人1組のペアとなり、互いのハイドリームとロードリームを聞き取り、社員各々が描く組織の一員としての夢やその実現のための課題などを明らかにしました。

松倉先生の軽快なリードにより、役員や社員一人ひとりが積極的に発言され、日頃から考えている法人の将来像や社員それぞれが目指す将来の姿、その実現のために考えている具体策などを明らかにする貴重な機会となりました。

「地域の農地を大切に守る」という組織の理念が、社員一人一人に浸透していることも明らかとなり、組織内の信頼関係がいっそう深まったように感じました。

普及センターでは、引き続き、農業法人の様々な課題解決のための幅広い支援を行ってまいります。

○農業法人でスマート農業研修会を行いました

令和7年8月18日

大河原農業改良普及センター



角田市高田萱場地区の担い手である農事組合法人さくらファームでは、来年度より、面工事完了後の大区画ほ場で水稲直播栽培に取り組むこととしています。そこで、水稲直播種栽培と栽培支援システム（ザルビオ）の活用について「スマート農業研修会」を7月24日に開催しました。

法人理事7名が出席し普及センター職員が講師となり、直播栽培のメリット・デメリット、管理のポイントについて説明しました。また、栽培支援システム（ザルビオ）の効果的な活用方法について、画面をみながら解説しました。

法人からは、直播栽培に適した土壌条件についてなど質問が熱心に出され、次作に向けた意気込みを感じました。

普及センターでは、今後も先進的技術に取り組む経営体を支援してまいります。

○令和7年度加美郡りんご協議会先進地視察研修会

令和7年8月29日

大崎農業改良普及センター



加美郡内のりんご生産者14名で組織する加美郡りんご協議会は、毎年研修会や先進地視察などの調査・研究活動を精力的に行っています。これら活動の一環として、令和7年8月20日に先進地視察研修会を開催しました。

最初の視察先の秋田県果樹試験場では、秋田県育成品種や現在の試験研究の内容について、2か所目の駒形地区の生産者ほ場では、降雪地帯特有の仕立て方やぶどうとの複合経営などのお話をいただきました。

今回の研修会には夫婦での参加もあり、会員15名の参加がありましたが、今後の栽培管理を行う上で大変参考となる情報をいただくことができました。

普及センターでは、今後りんごの生産振興に向

け、協議会活動の支援を行っていきます。

②新たな担い手の確保・育成

○農業大学校生の普及センター訪問(先進農業体験学習)を開催しました 令和7年8月6日 石巻農業改良普及センター



令和7年7月29日に「農業大学校生の普及センター訪問」を石巻合同庁舎で開催しました。

9月8日から先進農業体験学習として管内農業法人で研修する農業大学校生3人が出席しました。また、石巻地区4Hクラブ連絡協議会の会長と副会長が出席し、学生へ4Hクラブ活動の紹介を行いました。

学生3人からは、体験学習に向けた心構えについて、学習先の法人で学びたいこと、体験を通してどんな自分になりたいかなど、体験学習への決意が発表されました。

4Hクラブの会長と副会長からは、学生に対して、クラブ員同士の交流と自己研鑽を目的とした活動について、自ら生産した野菜などの販売会の開催や、自主企画した他地域の農業経営視察研修等の実施について紹介が行われました。

学生3人は、体験学習や4Hクラブの活動などについて、4Hクラブ員と実際に意見交換するなど、たいへん有意義な普及センター訪問となりました。

○みやぎ農業未来塾「第2回地域農業紹介講座」を開催しました 令和7年8月8日 巨理農業改良普及センター



令和7年7月29日、みやぎ農業未来塾「第2回地域農業紹介講座」を開催しました。講座には、管内で先進農業体験学習(以下、体験学習)を行う宮城県農業大学校1年生13人が参加しました。

体験学習は、農業大学校のカリキュラムの一環で、先進的な農業経営を実践している農業者の元で、農業技術や経営について学ぶものです。今年度の体験学習は9月8日から10月10日の33日間で行われる予定です。

講座では、地域農業の概況を説明した後、体験学習の受入先からのメッセージや栽培品目・作業内容について、事前に撮影した動画により紹介しました。学生の皆さんは、農園のこだわりや関係者の名前等を熱心にメモし、受入先からのメッセージに、気持ちを引き締めて緊張した様子で聞き入っていました。また、農業大学校の先輩の就農事例も動画で紹介しました。

最後に、学生1人ひとりから体験学習に向けた決意表明をしていただきました。それぞれの発表内容から、今回の体験学習を将来の進路を決める良い機会にしたいという強い思いが感じられました。

当普及センターでは、今後も農業大学校と連携し、地域の農業を担う人材の確保と育成に努めてまいります。

○若手女性農業者向けワークショップ「みんなでマルシェ参加講座Ⅰ」を開催しました！ 令和7年8月18日 大崎農業改良普及センター



@NOLIFE_NOLADY

https://www.instagram.com/nolife_nolady?igsh=MXhmaXIzMWRwa3pvcQ%3D%3D&utm_source=qr

令和7年度は、「みんなで販売会・マルシェ出店にチャレンジ!」をテーマに、管内イベントやマルシェに参加して農産物等の販売を行うこととしています。出店に向けた準備として、令和7年8月7日(木)に第1回ワークショップ「みんなでマルシェ参加講座 I ～マルシェの事例研究と企画の立案研修～」を開催しました。

ワークショップには3地域から9名の女性農業者が参加し、(一社)みやぎ大崎観光公社の小林営業戦略部長を講師に、「どのようなマルシェにしたいか」や、マルシェのキャッチフレーズ、ロゴマークの作成などについて検討を行いました。

検討の結果、マルシェのキャッチフレーズは「農 Lady 農 Life」に決定し、参加者が生産する農産物をイメージした素敵なロゴマークも制作されました。参加者はマルシェ出店に意欲的であり、「みんなで活動ができることがよかった」、「出店への意気込みが高まった」、「事前の講座を含め全参加を目指したい」といった感想が寄せられました。

今年度は「おおさき産業フェア 2025」(令和7年10月18日(土)、大崎市)、「大崎地方青年文化祭」(令和8年1月18日(日)、美里町)の2つのイベントへのマルシェ参加を計画しています。また、9月10日(水)に出店に向けた第2回講座、令和8年2月頃に反省会・交流会を開催する予定です。

○角田市の新規就農者へのサポートチームによる訪問を行いました

令和7年8月21日

大河原農業改良普及センター



8月19日に、角田市で農業次世代人材投資事業(経営開始型)及び新規就農者育成総合対策・経営開始資金の交付を受けている新規就農者を対象として、サポートチームによる訪問を行いました。

この訪問は、新規就農者が栽培技術や経営ノウハウ等を習得し、早期に経営安定を図ることを目的としています。

今回は果樹生産者2名、いちご生産者1名を巡回し、生産・経営状況の確認や、栽培管理の指導、規模拡大等に関する今後の課題の聞き取りなどを行いました。

各農家とも、この夏の高温への対応に苦慮しているようでしたが、自身の営農ビジョン実現に向けて、栽培管理等に励んでいる様子が伺えました。

普及センターでは今後も関係機関と連携し、新規就農者の定着支援に取り組んでいきます。

○本吉響高校が気仙沼合庁地場産品直売会に参加しました

令和7年8月28日

気仙沼農業改良普及センター



令和7年8月1日、気仙沼合同庁舎で普及センターが開催した地場産品直売会において、本吉響高等学校農業専攻の2年生2人が、他の出展者1社とともに参加しました。販売ブースには、高校で栽培したトマト、きゅうりやピーマンなど旬の野菜がところ狭しと並び、採れたてで値段が安いこともあって、買い物袋いっぱい買い求めるお客様もいらっしゃいました。

開始から1時間もしないうちに完売し、大変好評でした。

生徒は、接客で戸惑うなど不慣れな場面もありましたが、引率の先生に助けられ、スムーズに対応できたようでした。

販売会終了後に生徒に感想を求めたところ、「楽しかった」と笑顔で返事が返ってきました。普及センターでは、今後も将来の担い手となる学生や青年農業者等への活動支援を続けていきます。

○登米市4Hクラブが登米おいしいもの市に参加しました

令和7年8月29日

登米農業改良普及センター



令和7年8月21日に県庁ロビーで登米市主催の「登米おいしいもの市」が開催され、登米市4Hクラブが参加しました。クラブからは玉ねぎ、ピーマン、トマトなどの農産物やポン菓子などの農産加工品を販売しました。当日は登米市内の桃や紫蘇を使ったふりかけなどが販売されていましたが、4Hクラブの出品物は非常に人気で、見事全品完売となりました。お客さんの中には登米市4Hクラブに興味を持たれた方もおり、会話を通じてクラブの知名度向上にも

つながったようです。クラブ員も販売を通じて自分たちの活動に自信をつけ、次の販売会にも参加したいと意気込んでいました。

当普及センターは今後も登米市4Hクラブの活動を支援してまいります。

○内ノ目地区で加工用トマトの収穫が行われました

令和7年8月29日

登米農業改良普及センター



登米市東和町の内ノ目地区は農地整備事業の活用を希望し、令和8年度採択に向けて取り組んでいます。具体的には、事業目標年度である令和17年度までに、新規に法人を設立し、担い手となる1法人に農地を集積・集約するとともに、新たに高収益作物を作付けする計画です。このため、当普及センターでは内ノ目地区での法人設立と高収益作物試作の支援を行っています。

8月中下旬に高収益作物として検討している加工用トマトの収穫が行われました。収穫には法人の役員候補者、協力者の6人が参加し、強い日差しの中協力して作業を行いました。今年は気温も高く、雨も少ない傾向であったため、一部のトマトは生育不良でしたが、概ね良好に生育した様子で、順調に収穫が行われました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、内ノ目地区地域営農構想の実現に向けて支援していきます。

③園芸産地の育成・強化支援

○JA仙台トルコギキョウ生産組合現地検討会が開催されました

令和7年8月5日

仙台農業改良普及センター



令和7年7月23日、JA仙台トルコギキョウ生産組合現地検討会が開催され、11名の参加がありました。現地検討会では、主に8月出荷のほ場を巡回し、栽培管理等について意見交換が行われ、普及センターからは、病虫害防除に関する情報提供を行いました。

参加者は、熱心に園主の話聞き、自分のほ場と比べながら、適期出荷時期を検討する姿が見られました。

猛暑の日が続いていますが、生育は概ね順調でこれから色とりどりのトルコギキョウの出荷が行われます。

○南三陸地域花卉出荷目揃え会・圃場現地調査が開催されました

令和7年8月7日

気仙沼農業改良普及センター



令和7年7月24日にJA新みやぎ南三陸地域花卉生産協議会主催によるお盆用菊類の出荷目揃え会及び圃場現地調査が開催され、生産者や関係機関等9名が参加しました。

目揃え会は、志津川営農センター集出荷場で行われ、当日出荷されたキク類の出荷箱の中から2箱選出し、適切な出荷に向け、花の咲き具合、病害の有無等について皆で確認しました。また、普及センターから、オオタバコガ対策、セルトレイ育苗期の有効な摘心時期、高温に比較的強いキク品種について、資料を用いて説明しました。

圃場現地調査では、生産ほ場を2か所視察し、生育状況を確認しました。高温による早期開花や開花遅延が懸念されましたが、今回視察したほ場は概ね順調に生育しており、お盆時期の出荷が期待されます。

普及センターでは、今後も管内花き産地の販売額向上を支援していきます。

○今年初めて天敵ダニ製剤を導入した梨ほ場で現地検討会を行いました
令和7年8月12日
仙台農業改良普及センター



令和7年8月1日に、利府町春日地区において、地域おこし協力隊が栽培管理を行っている梨園で天敵ダニ製剤の現地検討会を開催しました。地域の農業者や農薬メーカー、東北農政局等が参加しました。

このほ場は、今年度県が実施した「みどりの食料システム戦略」にかかわる事業の「グリーンな栽培体系加速化事業」を活用し、天敵ダニ製剤の導入実証を行っているものです。導入した地域おこし協力隊の園地は、昨年度、ダニ類の大量発生に悩み、農薬散布に大変苦勞したとのことでした。天敵ダニ製剤の利用については、事前の準備や園地の下草管理、使用する殺虫剤の選定など条件を整える必要がありますが、一般的な生産者でも難しいところがありますが、栽培暦2年目の彼らがチャレンジしています。今年の猛暑にもかかわらず、ダニ類の発生はいまのところぐわずかで、今後の状況を注意深く観察していきます。

普及センターからは、これまでの経過の説明し、宮城県農業・園芸総合研究所の研究者からこれまでの調査の経過を説明しました。また、農薬メーカーから商品の情報提供を行い、参加者の理解が深まりました。参加者は実際に虫メガネを使って、ダニ類を探しましたが、見つけることはできませんでした。

普及センターでは、今後も、天敵ダニ製剤の利用など環境にやさしい栽培方法の普及に取り組んでいきます。

○JA 新みやぎあさひなねぎ部会で視察研修会が開催されました
令和7年8月14日
仙台農業改良普及センター



令和7年8月5日、JA新みやぎあさひなねぎ部会の視察研修会が開催され、部会員13名が参加しました。

研修は、JAいしのみき矢本長ねぎ生産組合の組合員のは場を視察し、園主とJAの担当者から産地の概要や栽培している品種の特徴、高温対策について説明を受けました。

他産地の生産者とは場管理や栽培技術、部会活動について積極的に情報交換を行い、有意義な研修となりました。

普及センターでは、JA新みやぎあさひなと連携しながら、ねぎの生産振興を支援してまいります。

○さつまいもと加工用トマトの現地検討会を開催しました
令和7年8月14日
大河原農業改良普及センター



農地整備が各地で行われている大河原地域では、高収益作物の栽培に関心が高まっています。このような背景から、普及センターでは令和7年7月23日に管内の先行事例であるさつまいもと加工用トマトの現地検討会を開催しました。

川崎町の農事組合法人ふるせきファームでは、さつまいもの栽培が4年目を迎え、病害虫や雑草、獣害を経験し、ようやく今年安定した収量が見込めそうだとの説明がありました。また、ヤンマーアグリジャパン(株)からは、作付けや防除など畝をまたぐ作業が何度も行われる畑作での、RTKトラクターの畝立ての重要性が紹介されました。

柴田町の農事組合法人葉坂の希望の郷の加工用トマトほ場では、初めて地這いの加工用トマトを見る参加者も多く、カゴメ(株)の職員からは、契約栽培の仕組みなどが紹介されました。

当日は大変暑い日ではありませんでしたが、管内で農地整備を行っている地区の法人などを中心に約60名が参加し、栽培方法や収益性について熱心に質問する姿が見られました。

○加工用ばれいしょの収穫が行われました
令和7年8月19日
登米農業改良普及センター



登米地域では、令和3年度に加工用ばれいしょを栽培する生産者によって「登米ぼてと組合」が設立され、以降、組織的な取り組みが行われており、今年の加工用ばれいしょの作付面積は約15haとなっています。

今年、定植期の断続的な雨や5月末の豪雨、6月と7月の極端な雨不足など、収量品質への気候的な影響が大きいシーズンとなりました。収量については増減があるものの、収穫作業における大きなトラブルは無く、7月下旬から8月上旬にかけて、無事全員が収穫を終えることができました。

普及センターでは、加工用ばれいしょの生産者を対象に、栽培技術向上を支援するプロジェクト課題に取り組んでいます。安定した収量・品質の確保に向けた体制の確立を目指し、管内版栽培マニュアルの作成や、生産中・長期計画の策定などを支援してまいります。

○金成津久毛地区にて加工用トマトの収穫が行われました！
令和7年8月21日
栗原農業改良普及センター



令和7年8月5日(火)、金成津久毛地区の農地整備ほ場にて加工用トマトの収穫が行われ、関係機関や地域の担い手あわせて約20名が参加しました。

今回収穫された加工用トマトは、5月に定植が行われたもので、カゴメ株式会社の指導のもと、生産者によって適切な栽培管理が行われてきました。また、県農業・園芸総合研究所やヤンマーアグリジャパン株式会社の協力のもと、効率的な栽培手法や機械化体系の確立に向けて支援してきました。

本年、栗原地域では7月の降水量が少なく高温傾向で推移したため、加工用トマトは小玉傾向であり高温障害の果実も発生しましたが、無事に収穫を迎え生産者は安堵した様子でした。

収穫された果実はカゴメ株式会社で販売されているジュース等に加工され、消費者のもとへ届けられます。普及センターでは、今後も生産者や関係機関と連携しながら、園芸産地の育成に向けて支援していきます。

○亘理名取りりんご栽培研修会を開催しました
令和7年8月28日
亘理農業改良普及センター



令和7年8月20日(水)、亘理名取果樹振興協議会主催による「りんご栽培研修会」が開催され、当日は会員28人と関係者8人の計36人が参加しました。

本協議会は、名取市、岩沼市、亘理町、山元町の2市2町の果樹団体が構成され、地域の気候や土壌に適したりんご栽培の技術向上と情報共有を目的に活動しています。

今回の研修では、山元町りんご組合の園地を視察し、温暖化の影響による「ふじ」の着色不良への対応として、着色系ふじへの更新が進められている現状を学びました。参加者からは、着色系ふじの栽培特性について多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。また、今年の高温による日焼け果の発

生状況も報告され、修正摘果による品質改善の取組を確認しました。

その後、宮城県農業・園芸総合研究所花き・果樹部果樹ほ場へ移動し、研究員の案内で、りんごのジョイント栽培を視察しました。慣行栽培に比べて管理が容易で、収量が多く、日焼け果が少ないことが確認され、参加者の関心を集めました。

普及センターでは、気象経過や開花状況、果実の肥大、ハダニ類の防除について情報提供を行う等、今後も本協議会の活動を支援していきます。

○柴田町の農業法人が加工用トマトの収穫を行いました

令和7年8月29日

大河原農業改良普及センター



柴田町の農事組合法人「葉坂希望の郷」では、今年度初めて食品メーカーと出荷契約を結び、加工用トマトの生産に取り組んでいます。

加工用トマトは生食用トマトとは異なり露地で栽培がおこなわれます。4月末に定植したトマトは、今夏の高湿少雨の気象状況の中、栽培管理に苦心しながらも適正に管理が行われ、7月末に無事収穫期を迎えました。

7月31日からは収穫作業が行われ、赤く完熟したトマトは丁寧に選別され、出荷用コンテナに積み込まれました。収穫された果実はジュース等に加工される予定です。

栽培初年度にも関わらず県平均並みの収量を確保し、法人構成員からは、生産の手応えとともに、次作に向けての意気込みが感想として出されました。

普及センターでは今後も関係機関と連携し、法人経営の安定に向け園芸品目の定着支援を行ってまいります。

④収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○大豆難防除雑草対策実証ほ見学会が開催されました

令和7年8月8日

亘理農業改良普及センター



令和7年8月1日に全国農業協同組合連合会東北営農資材事務所主催の「大豆難防除雑草対策実証ほ見学会」が開催され、生産者・関係機関等25人が参加しました。

実証試験は、アサガオ類の難防除雑草が繁茂し、減収や手取り除草が強い大豆ほ場において、「ラウンドアップマックスロード(除草剤)」及び「トレファノサイド乳剤(除草剤)+土壌混和」の組み合わせによる体系的な防除効果を検証しています。

県内5JAで10人の生産者が実証試験に取り組んでおり、今回、株式会社やまもとファームみらい野が会場になりました。

始めに、日産化学株式会社から昨年の実証試験の結果説明があり、続いて、亘理農業改良普及センターから大豆の生育状況を説明しました。最後に、株式会社やまもとファームみらい野から実証ほの耕種概要や玉ねぎ・大豆・秋冬ねぎの輪作体系を実現させるために大豆の難防除雑草対策に取り組んでいることが説明されました。

その後、実証ほへ移動し、参加者全員で除草効果を確認しました。総括として、農研機構 浅井 雑草グループ長から「雑草が無く、体系防除の効果が出ている」とコメントがありました。

普及センターでは、今後も収益性の高い水田農業の展開を支援してまいります。

○宮城県畜産総合共進会に向けた代表牛の集合指導会が開催されました

令和7年8月14日

大河原農業改良普及センター



令和7年9月5日、6日に宮城県総合畜産共進会

(肉用牛の部)が開催されます。

それに向け、仙南地域では、令和7年7月11日に仙南地域と牛共進会が開催され、代表牛10頭を選定しました。

令和7年8月4日には、その代表牛を集め、宮城県総合畜産共進会でトップをとるための指導会が開催され、仙南地域共進会からこれまでの牛の管理でどの程度大きくなっているか、太りすぎていないかなどを確認し、今後の牛の管理を確認しました。

また、牛の調教指導員の守屋慶市氏から、本番当日に牛を良く見せるための牛の手入れ・扱い方、群出品の整列の仕方などを学びました。

今回の指導で学んだことを生かして牛の管理に注意を払い、宮城県総合畜産共進会でトップを目指したいと思います。

○金のいぶきの現地検討会が開催されました。

令和7年8月14日

気仙沼農業改良普及センター



令和7年7月24日に気仙沼市本吉町内で気仙沼金のいぶき協議会による現地検討会が開催され、生産者や関係機関等9名が参加しました。

「金のいぶき」生産ほ場を2か所視察し、今年の高温・少雨の状況の中でも順調に生育している状況を確認しましたが、今後の水不足による影響を心配する声がありました。

普及センターから、幼穂形成期以降の

肥培管理について説明し、併せて出穂期以降の積算平均気温を目安とする刈り取り適期を把握するため、各生産者に「金のいぶき」の出穂期の記録を依頼しました。

今後も、「金のいぶき」の高品質生産に向けた適切な栽培管理のための巡回指導を行っていきます。

○米山地区で大豆現地検討会が開催されました

令和7年8月14日

登米農業改良普及センター



登米管内の大豆栽培面積は約1400haとなっており、県全体の約15%を占めています。

7月25日、米山地区で現地検討会が開催され、生産者、関係機関約15名が参加しました。

最高気温37℃の猛暑の中、8ほ場を巡回し生育を確認しました。6月上旬まで播種したほ場の生育は比較的良好でしたが、それ以降播種したほ場では、極端な少雨による出芽不良や生育の停滞が見られ、蒔き直しを行ったほ場もありました。

室内での研修では、病害虫防除と、水分不足の対策として「畝間灌水」について普及センターから説明しました。また、メーカーの担当者からは除草剤の体系処理や肥料の施用方法について説明がありました。生産者からは「厳しい気象条件だが、今生育している大豆はできるだけ生かしていきたい」との声がありました。

作物にとっては厳しい気象の年となっていますが、普及センターでは、継続して大豆生産への支援を行ってまいります。

○酒米「蔵の華」の稲作指導巡回を行いました

令和7年8月18日

気仙沼農業改良普及センター



気仙沼市廿一(にじゅういち)地区では、清流「蔵の華」廿一会(会員12名)が、酒米「蔵の華」を約7ha栽培し、気仙沼市内の蔵元2社に全量販売しています。

7月23日に同地区において、「蔵の華」栽培の現地巡回を行い、全会員に対して生育状況の確認と今後の栽培管理についての助言を行いました。

併せて、県病害虫防除所から斑点米カメムシ類の注意報が7月18日発表されていたため、水田内のすくい取り調査も行いました。近年、発生量が増えているクモヘリカメムシも確認できたため、改めて斑点米カメムシ類の防除について指導し、注意喚起を行いました。

また、「蔵の華」は、7月下旬頃から出穂が始まるため、適切な水管理について指導するとともに、熱中症対策も注意喚起しました。

普及センターでは今後も酒米「蔵の華」の安定生産に向けて生育状況の調査等、支援を行います。

○矢本・鳴瀬地区合同大豆現地検討会が開催されました

令和7年8月27日

石巻農業改良普及センター



令和7年8月7日に、やもと転作組合連絡協議会・転作部会鳴瀬支部の大豆現地検討会が開催されました。

検討会では、矢本・鳴瀬地区の5つのほ場を巡回し、今年の生育経過や今後の栽培管理について確認しました。記録的な高温と降雨がない期間が続いているため、暗渠管を閉めるなどの水管理の工夫や、ハダニ・カメムシ等主要病害虫の防除について指導を行いました。また、宮城県で今年から本格的に栽培を開始している新品種「すずみのり」の特性や、農薬メーカーの除草剤展示ほ場の状態を確認しました。

当普及センターでは、令和7年産大豆の高品質・安定生産に向けて引き続き支援を行っていきます。

⑤地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○登米地区生活研究グループ研修会で洋風はつとを体験！

令和7年8月4日

登米農業改良普及センター



令和7年7月29日、登米地区生活研究グループ員

研修会が開催されました。

今回は、中田町で洋風はつとを提供している農家レストラン「草と手と水」を訪問。鈴木店長から、お店への熱い想いをたくさん伺ってきました。

鈴木店長からは、登米市への移住のきっかけや、古民家を活かしたリノベーションのこだわりについてお話しいただきました。特に印象的だったのは、化学肥料や農薬を極力使わない野菜作りへの情熱、そして「はつとを洋風アレンジして若い世代にも食べてもらいたい」という強い思いでした。

研修の後半では、いよいよ自慢の洋風はつとを試食。参加者からは「自分たちが普段作るはつとは全然違う！」と驚きの声が上がリ、活発な意見交換が行われました。

今回の研修会は、登米市で活躍する若手農業者の取り組みから多くを学ぶ機会となり、参加者からも大変好評でした。

県では、今後も生活研究グループの活動を支援しながら、地域の資源を活用した農業の発展に向けて取り組んでいきます。

○大和町及び仙台市中山間部の農業者間で農地整備に関する交流を行いました

令和7年8月8日

仙台農業改良普及センター



大和町吉田地区の金取北農地整備事業推進協議会の生産者11名が、仙台市西部の（農）うえずとファーム仙台を視察訪問しました。

吉田金取北地区は大和町西部の中山間に位置し、今年4月に農地中間管理機構関連農地整備事業が採択され、（株）大輪を担い手とした、受益面積42.6haの農地整備が実施される予定です。

一方、（農）うえずとファーム仙台は、仙台市西部・中山間に位置する倉内大針地区で営農しており、令和3年に農業競争力強化農地整備事業（経営体育成型）が採択され、一足早く農地整備に着手しております。

両法人とも、不整形な農地や鳥獣被害、農地整備における担い手と地権者との付き合い方などの共通の課題を抱えており、双方の取組などについて意見交換がされました。

また、意見交換後には工事が完了した水田を視察しました。金取北の生産者らは、水路の大きさや農道の固さなど、細かな点まで確かめて、農地整備後のイメージを膨らませていました。

仙台農業改良普及センターでは、今後も市町村の隔たりを越えて、農地整備の担い手、中山間地域の担い手を支援してまいります。

○アレッタ栽培講習会が富谷市で開催されました
令和 7 年8月8日
仙台農業改良普及センター



令和 7 年 7 月 16 日に、富谷市中央公民館にて、富谷市の直売グループ「おんないん会」のアレッタに関する栽培講習会が開催されました。

アレッタとはブロッコリーとケールを掛け合わせた野菜です。平成 23 年に品種登録された新しい野菜で、花蕾だけでなく葉・茎もおいしく食べることができます。

栽培講習会では、栽培スケジュールのほか注意すべき病害虫や高温多雨時の管理方法などについて講師より解説がなされました。

「おんないん会」においては、アレッタを会の新規ブランド野菜として位置づけ、栽培に取り組む予定とのことです。

普及センターでは、生産者の新規品目導入を支援し、地域農業の振興に取り組んでまいります。

2. 持続可能な農業・農村の構築

① 環境に配慮した持続可能な農業生産

○金のいぶきの現地検討会が開催されました
令和 7 年8月18日
気仙沼農業改良普及センター



令和 7 年 7 月 24 日に気仙沼市本吉町内で気仙沼金のいぶき協議会による現地検討会が開催され、生産者や関係機関等 9 名が参加しました。

「金のいぶき」生産ほ場を 2 か所視察し、今年の高温・少雨の状況の中でも順調に生育している状況を確認しましたが、今後の水不足による影響を心配する声がありました。

普及センターから、幼穂形成期以降の肥培管理につ

いて説明し、併せて出穂期以降の積算平均気温を目安とする刈り取り適期を把握するため、各生産者に出穂期の記録を依頼しました。

今後も、「金のいぶき」の高品質生産に向けた適切な栽培管理のための巡回指導を行っていきます。

○令和 7 年度みどり認定・まるわかり相談会が開催されました
令和 7 年8月19日
石巻農業改良普及センター



令和 7 年 8 月 12 日（火）に東部地方振興事務所農業振興部の主催で、令和 7 年度みどり認定・まるわかり相談会が石巻合同庁舎で開催されました。

みどりの食料システム法による「みどり認定」については、令和 9 年度を目途に環境保全型農業直接支払交付金の要件とすることが検討されています。このため、当該交付金活用者を対象に、「みどり認定」の取得に向けた支援が必要であり、今回、関係機関と連携して開催に至ったものです。

本相談会では「みどり認定」の概要、認定までの流れ、取得することによるメリットや申請書の書き方などの詳しい説明のほか、参加者からの質問に答える相談も行われました。参加者にとっては、疑問点が解消され、「みどり認定」に対する理解が深まる機会となりました。

○米づくり推進登米地方本部生産振興部会を開催しました
令和 7 年8月19日
登米農業改良普及センター



令和 7 年 7 月 31 日に、米づくり推進登米地方本部生産振興部会を開催しました。農業生産に関わる関係機関を参集範囲とし、6 月から続く高温と用水不足に関して、登米管内の現状について情報共有を図りました。

今回は、農業農村整備部の農業用水対策連絡会議地方幹事会と併せて開催し、栗駒ダム、花山ダムを主

とするダムの貯水量や今後の農業用水の見通しについて情報提供がありました。

高温と用水不足により農作物への影響も少しずつ報告されており、引き続き、高温と雨不足が懸念されるところです。最後に、今できる「節水と飽水管理の徹底」について、関係機関がそれぞれ周知を行うことを改めて確認しあいました。

普及センターでは、関係機関と連携し、高温や用水不足に関する技術対策を周知して参ります。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亙理>
〒989-2301
亙理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.223

発行日:2025年9月4日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp